



## 2025年1月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年9月12日

上場会社名 丸善CHIホールディングス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 3159 URL <https://www.maruzen-chi.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 五味 英隆  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理・財務部長 (氏名) 吉留 政博 TEL 03(6735) 0785  
半期報告書提出予定日 2024年9月12日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年1月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年2月1日～2024年7月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年1月期中間期	84,919	△0.0	2,052	△2.9	2,064	△3.3	1,233	0.7
2024年1月期中間期	84,942	1.2	2,113	28.0	2,136	33.9	1,225	32.4

(注) 包括利益 2025年1月期中間期 1,416百万円 (28.9%) 2024年1月期中間期 1,098百万円 (21.7%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年1月期中間期	13.33	—
2024年1月期中間期	13.24	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年1月期中間期	124,772	48,983	38.7
2024年1月期	128,896	47,766	36.5

(参考) 自己資本 2025年1月期中間期 48,243百万円 2024年1月期 47,024百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年1月期	—	0.00	—	2.00	2.00
2025年1月期	—	0.00	—	—	—
2025年1月期（予想）	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年1月期の連結業績予想（2024年2月1日～2025年1月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	164,500	1.0	3,400	△6.0	3,350	△9.0	3,900	77.7	42.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2025年1月期中間期	92,554,085株	2024年1月期	92,554,085株
2025年1月期中間期	9,006株	2024年1月期	8,526株
2025年1月期中間期	92,545,285株	2024年1月期中間期	92,546,077株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・問い合わせ先の電話番号について

本社移転に伴い、問い合わせ先の電話番号は、2024年9月17日から下記に変更となる予定です。

2024年9月13日まで TEL 03(6735) 0785

2024年9月17日から TEL 03(5261) 8171

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況.....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況.....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間連結貸借対照表 .....	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	7
中間連結損益計算書 .....	7
中間連結包括利益計算書 .....	8
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(追加情報) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間(2024年2月1日～2024年7月31日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善に加えインバウンド需要の増加もあり緩やかな回復基調で推移しましたが、一方で不安定な海外情勢、原材料や燃料価格を含む物価の高騰など、先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは中期経営計画を策定し、「これまで培ってきたグループ資産の活用促進」「市場の環境変化に対応した新しい事業の開発による成長領域の創出」「収益構造の転換(既存事業の安定化と成長事業への投資による、事業ポートフォリオの転換)」を基本方針として、知の生成と流通に持続的に貢献するための成長力と資本効率の向上に取り組んでおります。

当中間連結会計期間の業績につきましては、図書館サポート事業及び店舗・ネット販売事業は堅調に推移しましたが、文教市場販売事業における教科書などの書籍販売減少の影響により、売上高は849億19百万円(前年同期比0.03%減)と減収となりました。利益面は、店舗・ネット販売事業中心に利益率の改善に取り組みましたが、物価及び人件費の高騰により販管費が増加したため営業利益は20億52百万円(前年同期比2.9%減)、経常利益は20億64百万円(前年同期比3.3%減)と減益となりました。特別損失は増加しましたが、一方で当中間連結会計期間は特別利益の計上があり、さらに税金費用も減少したことから親会社株主に帰属する中間純利益は12億33百万円(前年同期比0.7%増)とほぼ前年同期並みとなりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### [文教市場販売事業]

当事業は以下の事業を行っております。

1. 図書館(公共図書館・学校図書館・大学図書館)に対する図書館用書籍の販売、汎用書誌データベース「TRC MARC」の作成・販売及び図書装備(バーコードラベルやICタグ等の貼付等)や選書・検索ツール等の提供
2. 大学などの教育研究機関や研究者に対する学術研究及び教育に関する輸入洋書を含む出版物(書籍・雑誌・電子ジャーナル、電子情報データベースほか)や英文校正・翻訳サービスをはじめとする研究者支援ソリューションの提供
3. 教育・研究施設、図書館などの設計・施工と大学経営コンサルティングをはじめとする各種ソリューションの提供
4. 大学内売店の運営や学生に対する教科書・テキストの販売等

当中間連結会計期間の業績につきましては、教育・研究施設、図書館などの設計・施工は前年に比べ増加したものの、教科書などの書籍販売が減少したことから、売上高は259億94百万円(前年同期比2.8%減)、営業利益は18億24百万円(前年同期比12.8%減)と減収減益となりました。

#### [店舗・ネット販売事業]

当事業は、主に全国都市部を中心とした店舗網において和書・洋書などの書籍をメインに、文具・雑貨・洋品まで多岐にわたる商品の販売を行っております。

店舗の状況といたしましては、2024年3月にフランチャイズ加盟している株式会社駿河屋BASEが展開するホビショップと書店のコラボショップ「駿河屋 梅田茶屋町店」「駿河屋 天文館店」を開店、また2月に「戸田書店 富士宮店」、4月に「ジュンク堂書店 弘前中三店」、5月に「丸善 アトレ吉祥寺店」を閉店した結果、2024年7月末時点の店舗数は109店舗となっております。(うち1店舗は海外店(台湾)、18店舗は「丸善(MARUZEN)」「ジュンク堂書店」の店舗名ではありません。)

当中間連結会計期間の業績につきましては、和書の売上が堅調であったことに加え、「駿河屋」を2店舗、「絵本の世界を楽しむことのできる空間」をコンセプトとした「EHONS」を4ヶ所(池袋・広島・吉祥寺・静岡)、2025大阪・関西万博オフィシャルストアを8ヶ所(大阪梅田・大阪難波・京都・神戸三宮・広島・福岡・那覇・札幌)、株式会社バンダイのカプセルトイブランド「ガシャポン」の専門店「ガシャポンバンダイオフィシャルショップ」及び「本屋さんのガシャポンのデパート」(高松)をオープンするなど高利益率商品を取扱う新形態の店舗展開に取り組んだ結果、売上高は327億69百万円(前年同期比0.1%増)、営業利益は3億14百万円(前年同期比251.6%増)と増収増益となりました。

## [図書館サポート事業]

当事業は、図書館の業務効率化・利用者へのサービス向上の観点から、カウンター業務・目録作成・蔵書点検などの業務の請負、地方自治法における指定管理者制度による図書館運営業務、PFI(Private Finance Initiative)による図書館運営業務及び人材派遣を行っております。

当中間連結会計期間の業績につきましては、図書館受託館数は期初1,806館から20館増加し、2024年7月末時点では1,826館(公共図書館623館、大学図書館240館、学校図書館他963館)となり堅調に推移しました。

その結果、当事業の売上高は186億55百万円(前年同期比5.3%増)、営業利益は15億30百万円(前年同期比12.0%増)と増収増益となりました。

## [出版事業]

当事業は、『理科年表』をはじめとする理工系分野を中心とした専門書・事典・便覧・大学テキストに加え、絵本・童話などの児童書、図書館向け書籍の刊行を行っております。また、医療・看護・芸術・経営など多岐にわたる分野のDVDについても発売を行っております。

当中間連結会計期間につきましては、専門分野として『睡眠学の百科事典』『〈数理と経済〉離散凸解析—理論の拡大と応用』『極論で語る予防医療』『Excelで解く構造形態創生 建築におけるトポロジー最適化』『ユダヤ文化事典』、児童書として『にじいろフェアリーしずくちゃん9』『しずくちゃん42』『あかちゃん(おとがでる しかけえほん うごかして ならそう!)』『どうぶつ(おとがでる しかけえほん うごかして ならそう!)』など、合計新刊100点(前年81点)を刊行いたしました。

また47の都道府県ごとに名産品、食文化、伝統行事、各地の伝承や歴史などをまとめた『47都道府県ご当地文化百科シリーズ(全47巻)』を2024年6月の北海道および東北6県を皮切りに、11月にかけて順次刊行してまいります。

当中間連結会計期間の業績につきましては、新刊の刊行遅延の影響により売上高は19億45百万円(前年同期比5.9%減)と減収となり、利益面も65百万円の営業損失(前年同期34百万円の営業利益)となりました。

## [その他]

当事業は、書店やその他小売店舗を中心に企画・設計デザインから建設工事・内装工事・店舗什器・看板・ディスプレイなどのトータルプランニング(店舗内装業)に関わる事業、図書館用図書の入出荷業務、Apple製品やパソコンの修理・アップグレード設定等の事業(株式会社図書館流通センターの子会社であるグローバルソリューションサービス株式会社による)、総合保育サービス(株式会社図書館流通センターの子会社である株式会社明日香による)、税務・会計・M&A領域において電子化された専門書籍・雑誌を横断的に検索・閲覧できるサービス(丸善リサーチ)を行っております。

当中間連結会計期間の業績につきましては、総合保育サービス事業及びPC修理に関する事業は順調に推移しましたが、店舗内装業において案件が減少した影響で売上高は55億52百万円(前年同期比1.9%減)、営業利益は2億7百万円(前年同期比10.1%減)と減収減益となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて39億60百万円減少し、891億37百万円となりました。これは、現金及び預金が47億96百万円増加し、受取手形及び売掛金が6億31百万円、その他が73億55百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1億63百万円減少し、356億34百万円となりました。これは、有形固定資産が1億88百万円、無形固定資産が2億55百万円増加し、投資その他の資産が6億7百万円減少したことによります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べて41億24百万円減少し、1,247億72百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて66億50百万円減少し、499億11百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が10億97百万円、短期借入金が65億20百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて13億9百万円増加し、258億76百万円となりました。これは、長期借入金17億89百万円増加し、その他が4億23百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて53億41百万円減少し、757億88百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて12億16百万円増加し、489億83百万円となりました。これは、利益剰余金が10億48百万円増加したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①業績予想について

2025年1月期の業績見通しにつきましては、2024年3月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

②配当予想について

当社グループは株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と認識し、新規事業開発をはじめとする成長投資を行いながら、業績に応じた配当を行うことを基本方針としております。

2025年1月期期末配当につきましては、2024年3月14日に公表いたしましたとおり、1株当たり3円の配当を実施する予定としております。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当中間連結会計期間 (2024年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	26,130	30,926
受取手形及び売掛金	15,780	15,149
商品及び製品	36,179	35,835
仕掛品	503	517
原材料及び貯蔵品	735	694
前渡金	2,926	2,535
その他	10,887	3,532
貸倒引当金	△44	△54
流動資産合計	93,098	89,137
固定資産		
有形固定資産	20,973	21,161
無形固定資産	1,207	1,462
投資その他の資産		
投資有価証券	4,249	4,541
長期貸付金	1,375	540
敷金及び保証金	7,255	7,262
その他	924	887
貸倒引当金	△188	△222
投資その他の資産合計	13,616	13,009
固定資産合計	35,797	35,634
資産合計	128,896	124,772

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当中間連結会計期間 (2024年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,109	16,012
短期借入金	21,570	15,050
1年内返済予定の長期借入金	2,282	1,413
リース債務	464	467
前受金	5,228	6,332
未払法人税等	876	877
賞与引当金	256	228
その他	8,772	9,529
流動負債合計	56,562	49,911
固定負債		
長期借入金	14,502	16,292
リース債務	758	758
役員退職慰労引当金	62	66
退職給付に係る負債	4,922	4,855
資産除去債務	2,876	2,883
その他	1,443	1,020
固定負債合計	24,567	25,876
負債合計	81,129	75,788
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,000	3,000
資本剰余金	14,487	14,486
利益剰余金	29,084	30,132
自己株式	△2	△3
株主資本合計	46,569	47,616
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	349	574
繰延ヘッジ損益	23	△1
為替換算調整勘定	△49	△62
退職給付に係る調整累計額	131	116
その他の包括利益累計額合計	455	627
非支配株主持分	742	740
純資産合計	47,766	48,983
負債純資産合計	128,896	124,772



(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)
売上高	84,942	84,919
売上原価	64,413	64,108
売上総利益	20,529	20,810
販売費及び一般管理費	18,415	18,757
営業利益	2,113	2,052
営業外収益		
不動産賃貸料	119	114
その他	157	125
営業外収益合計	276	240
営業外費用		
支払利息	108	119
不動産賃貸費用	64	65
支払手数料	68	32
その他	12	10
営業外費用合計	254	228
経常利益	2,136	2,064
特別利益		
抱合せ株式消滅差益	—	21
受取補償金	—	74
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	96
特別損失		
固定資産除却損	8	7
減損損失	2	14
貸倒引当金繰入額	86	60
抱合せ株式消滅差損	18	—
早期割増退職金	13	5
ゴルフ会員権売却損	—	2
支払補償金	—	32
事務所移転費用	—	29
特別損失合計	129	152
税金等調整前中間純利益	2,006	2,008
法人税、住民税及び事業税	760	760
法人税等調整額	42	4
法人税等合計	802	764
中間純利益	1,204	1,243
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	△20	10
親会社株主に帰属する中間純利益	1,225	1,233

## (中間連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)
中間純利益	1,204	1,243
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△84	225
繰延ヘッジ損益	7	△24
為替換算調整勘定	△14	△13
退職給付に係る調整額	△14	△14
その他の包括利益合計	△105	172
中間包括利益	1,098	1,416
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,119	1,406
非支配株主に係る中間包括利益	△20	10

## (3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(固定資産の譲渡)

1. 2024年2月29日開催の取締役会において、当社子会社である雄松堂ビルディング株式会社における固定資産の譲渡について決議、2024年3月6日に売買契約を締結、2024年8月29日に譲渡先への当該固定資産の引き渡しを完了いたしました。

(1) 譲渡の理由

グループ資産の効率化と財務体質の強化を図るため、以下の資産を譲渡することといたしました。

(2) 譲渡資産の内容

名	称	雄松堂ビル	
所	在	地	東京都新宿区四谷坂町10番10号
概	要		鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根8階建 敷地面積：429.74㎡(129.99坪) 延床面積：2,704.03㎡(817.97坪)
譲	渡	益	2,140百万円

譲渡価額、帳簿価額につきましては、譲渡先の意向により開示を控えさせていただきますが、入札による市場価額を反映した適切な価額での譲渡であると考えております。

なお、譲渡益は、譲渡価額から帳簿価額及び譲渡に係る諸経費見込額を控除した概算額を記載しております。

(3) 相手先の概要

譲渡先につきましては、先方の意向によりその開示を控えさせていただきます。なお、譲渡先と当社との間には、資本関係、人的関係及び取引関係はなく、関連当事者にも該当いたしません。

(4) 譲渡日程

取	締	役	会	決	議	日	2024年2月29日
売	買	契	約	締	結	日	2024年3月6日
物	件	引	渡	日			2024年8月29日

(5) 損益に与える影響

当該固定資産の譲渡に伴い、2025年1月期第3四半期連結会計期間において、約2,140百万円の固定資産売却益を特別利益として計上する見込みです。

2. 当社子会社である株式会社丸善ジュンク堂書店は2024年3月25日、同社が所有する固定資産の譲渡契約を締結、2024年8月29日に譲渡先への当該固定資産の引き渡しを完了いたしました。

(1) 譲渡の理由

グループ資産の効率化と財務体質の強化を図るため、以下の資産を譲渡することといたしました。

(2) 譲渡資産の内容

名	称	三栄町ビル	
所	在	地	東京都新宿区四谷三栄町11番24号

概 要	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根5階建 敷地面積：275.79㎡(83.4坪) 延床面積：874.11㎡(262.41坪)
譲 渡 益	400百万円

譲渡価額、帳簿価額につきましては、譲渡先の意向により開示を控えさせていただきますが、入札による市場価額を反映した適切な価額での譲渡であると考えております。

なお、譲渡益は、譲渡価額から帳簿価額及び譲渡に係る諸経費見込額を控除した概算額を記載しております。

### (3)相手先の概要

譲渡先につきましては、先方の意向によりその開示を控えさせていただきます。なお、譲渡先と当社との間には、資本関係、人的関係及び取引関係はなく、関連当事者にも該当いたしません。

### (4)譲渡日程

取 締 役 会 決 議 日	2024年3月19日
売 買 契 約 締 結 日	2024年3月25日
物 件 引 渡 日	2024年8月29日

### (5)損益に与える影響

当該固定資産の譲渡に伴い、2025年1月期第3四半期連結会計期間において、約400百万円の固定資産売却益を特別利益として計上する見込みです。